

伊予銀行地域文化活動助成制度
第 69 回 助成団体紹介資料

2026年 5月

目 次

<中予地区>

1. 松山坊っちゃん会(漱石研究会)
2. オペラえひめ
3. 志津川獅子舞保存会
4. 愛媛近世文学研究会
5. 愛媛リエート吹奏楽団
6. 針田町獅子舞保存会

<東予地区>

7. 一人角力保存会
8. 男声合唱団「我夢」

<南予地区>

9. 川名津神楽保存会
10. 八幡浜史談会
11. 大洲人形劇サークル「へそ太郎」
12. 朴 仔牛組
13. 大狩浜五つ鹿保存会
14. 清水五ツ鹿踊り保存会

道後支店推薦	まつやまぼ <small>かい そうせきけんきゅうかい</small> 松山坊っちゃん会(漱石研究会)	設 立	1962(S37).9
	会長 <small>さとう えいさく</small> 佐藤 栄作 氏	会員数	30名

松山坊っちゃん会様は、愛媛県尋常中学校での夏目漱石の教え子や、漱石を慕う人々により設立されました。漱石の作品研究、および文学遺跡の保存・顕彰を通じて、松山市の文化高揚に寄与しようと活動されています。

毎年4回「例会」を開催し、会員の研究発表や外部講師による講演を行っている他、漱石縁の場所を巡る「文学散歩」を実施。また年2回「坊っちゃん会会報」を発行し、講演内容や活動報告を掲載。学校や公民館、子規記念博物館等へ広く配布して好評を博しています。

2026年度は「坊っちゃん」発表120年記念にあたることから、記念講演会やシンポジウムを開催する他、会誌記念号の発行を計画しています。

さらに、新しいくだぶつあん愚陀仏庵が完成した暁には、観光客や市民を対象にした講座を開講するなど、地域に貢献できる活動をしたいと構想されています。



三津浜支店推薦	オペラえひめ
	理事長 <small>ふじもと みほ</small> 藤本 美穂 氏

設立	2004(H16).7
会員数	71名

オペラえひめ様は、かつて愛媛県が中心となって取り組んだ「愛媛県民オペラ」の趣旨を引き継ぎ、本県におけるオペラの普及と、芸術文化振興を目的に設立されたアマチュアのオペラ団体です。

現在の団員は約70名で、20歳代から90歳代まで幅広い年齢層が所属。ソリスト、合唱団、管弦楽、スタッフの4部門が一体となり活動する体制は全国的にも珍しいものです。

毎年オペラ公演を開催する他、近年は萬翠荘等で小編成のサロンコンサートを実施。サロンコンサートでは、歌劇のスタンダードナンバーを中心に披露し、県民に本格的なオペラを気軽に楽しむ機会を提供しています。

本年6月28日(日)、愛媛県県民文化会館において、第17回定期公演「ヘンゼルとグレーテル」の全幕公演を開催します。ぜひ、ご来場ください。

オペラえひめ 第17回定期公演
オペラ
ヘンゼルとグレーテル
E・フンパーディング作曲
全3幕 日本語上演

2026年6.28(日) 14:00開演 (13:15開場)
愛媛県県民文化会館 サブホール

●入場料: 5席指定 5,000円(当日5,500円)
A席自由 4,000円(当日4,500円)
学生席 2,500円(当日3,000円)
(高校生以下)
★ポスター会員様は10%割引、優先入場あり

●プレイガイド: マツヤマ楽器 TEL.089-933-4148
いよつ高島屋 TEL.089-948-2411
またはお電話QRコードよりお申し込みください

●お問い合わせ: オペラえひめ事務局 TEL.080-2587-4947
Mail: opera_ehime2023@gmail.com
HP: <https://opera.ehime2023.wixsite.com/my-site>

指揮 金正孝
演出 田中敬子
ヘンゼル 濱田玲奈
グレーテル 石川真子
ペーター 伊藤支祐
グルトルト 原田まゆみ
既りの精 高橋久美子
童の精 越智万里
魔女 中川正美

管弦楽 オペラえひめ管弦楽団
合唱 オペラえひめ合唱団
えひめこども合唱団 (奨励出演)

主催: オペラえひめ
後援: 愛媛県 愛媛県教育委員会 愛媛県文化協会 松山市 松山市教育委員会 愛媛市文化協会 愛媛新聞社



横河原支店推薦	しつかわししまいほぞんかい 志津川獅子舞保存会	設 立	1984(S59).4
	会長 <small>わたなべ まさと</small> 渡部 正人 氏	会員数	45名

志津川獅子舞保存会様は、東温市志津川地区に伝わる獅子舞を保存伝承されています。

天保3年(1832)の古文書に記録が残るこの獅子舞は、昭和20年代に地域の青年団の衰退により一時途絶えていましたが、地域の獅子舞を再興させようとの気運が高まり、昭和59年に大人獅子と子供獅子が復活し、保存会が設立されました。

現在、活動の中心は小学校高学年児童が舞手を務める子ども獅子で、毎年、天満神社の秋季祭礼や東温市獅子舞大会に参加。

演目は「お神楽」「新三番叟」「四天」「山さがし」「獅子起こし」等で、躍動感溢れる暴れ獅子がりズミカルな太鼓にあわせて勇壮に舞うのが特徴です。

今後も子ども会員の獲得と共に、大人獅子の舞手となる高校生や若手男性の育成にも努めていきます。



空港通支店推薦	えひめきんせいぶんがくけんきゅうかい 愛媛近世文学研究会
	かぐらおか ようこ まつい しのが 会長 神楽岡 幼子 氏 (出席:副代表 松井 忍 氏)

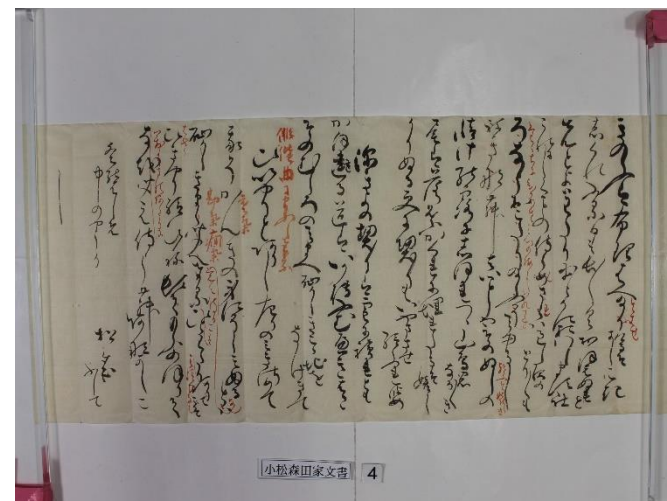
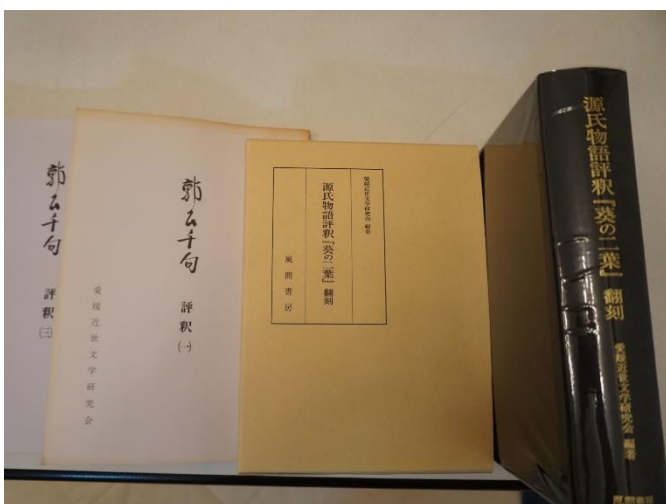
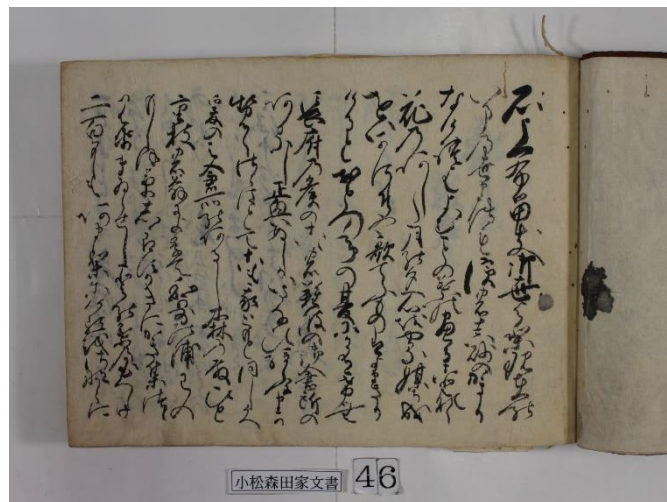
設立	1964(S39).4
会員数	14名

愛媛近世文学研究会様は、1964年、愛媛大学の白方勝^{しらかたまさる}氏が中心となり、日本近世文学に関心がある人々により設立されました。

ここ30年程は伊予の地域資料の掘り起こしと、資料の古文書を現在の文章に置き換える作業、その内容の研究に重きを置いて活動しています。

年数回、研究発表会を開催する他、愛媛大学の「翻字^{ほんじ}の会」と共同で翻字作業と研究に取り組んでおり、研究成果として数冊の書籍を出版。2004年に発行した「源氏物語評釈 葵の二葉^{ふたば} 翻刻^{ほんこく}」は、愛媛出版文化賞を受賞しました。

2026年度は、幕末の小松藩大坂勘定方を務め、在勤中に桂園派歌人 伊藤重枝から和歌の指導を受けた森田義^{よしのぶ}学に関する論考をまとめた「小松藩勘定方森田家資料 翻刻と研究」を出版予定です。



余戸支店推薦	えひめ 愛媛リエート吹奏楽団 すいそうがくだん	設 立	2003(H15).1
	団長 福田 愛奈 氏 ふくだ あいな	会員数	41名

愛媛リエート吹奏楽団様は、愛媛県立北条高等学校吹奏楽部のOBなどが中心となって設立された吹奏楽団です。管楽器を中心に、打楽器・コントラバスを含む吹奏楽編成の演奏活動を通じて、幅広い世代が音楽に親しむ機会を創出し、地域に根差した音楽文化振興を目的に活動しています。

現在の会員は18歳から60歳代で、中心は30歳代の若手が中心。SNSで活動の様子を積極的に発信し、その明るく開放的な雰囲気によって惹かれて入団する人が増えています。

毎年、定期演奏会を開催している他、コンクールへの参加や福祉施設への慰問も行う等、活発な活動を続けてきました。

本年6月7日、松山市民会館にて第19回定期演奏会を開催します。打楽器がメインのドラム・ミュージックなど、多彩な楽曲を披露しますので、是非ご来場ください。



余戸支店推薦	はりたちょうししまいほぞんかい 針田町獅子舞保存会	設 立	1980(S55).8
	会長 <small>だかおか</small> 高岡 <small>じゆん</small> 潤 氏	会員数	23名

針田町獅子舞保存会様は、松山市針田町に伝わる獅子舞を保存伝承されています。
 戦時中に一時衰退しましたが、1980年、当時の自治会長の声掛けで復活を果たしました。
 かつては一頭のみでしたが、2002年にもう一頭仕立て、以来、親子獅子となっています。
 針田町公民館主体で活動しており、毎年秋祭りで公民館や依頼があった先で演舞しています。
 演目は「本獅子」「山さがし」「獅子退治」の三つ。親爺や狩人など子役が登場する演目では、子役にセリフがあるのが特徴です。

近年は高齢者福祉施設への慰問のほか、雄郡公民館にも出向くなど活動の場を広げており、
 今後は町内でのポスター掲示や、インスタグラム等 SNS でも情報発信を行い、さらなる会員獲得に努めていきます。



宮浦支店推薦	ひとりずもうぼぞんかい 一人角力保存会	設立	1999(H11).4
	会長 <small>おち ひでお</small> 越智 秀雄 氏 (出席: <small>かん さだゆき</small> 力士 菅 貞之 氏)	会員数	6名

一人角力保存会様は、大山祇神社に600年以上伝わる神事「一人角力」を保存伝承されています。過疎化等で1984年に一旦途絶えますが、1999年のしまなみ海道開通を機に、復活を果たしました。全国的にも一人相撲の神事は珍しく、1964年に県の無形民俗文化財に指定されています。

この神事は旧暦5月5日の春の御田植祭おたうまさいと、9月9日の抜穂祭ぬきほさいで奉納されており、目に見えない稲の精霊と力士「一カ山」が相撲を取り、二勝一敗で精霊が勝つことで豊作が約束され、秋の収穫に感謝するという意味を持ちます。

見えない「神」と対する力士や行司の立ち振る舞いは、経験者の記憶や録画をもとに再現しましたが、現在の大相撲の所作も研究し、コミカルな動作も入れるなど、観客を楽しませるアレンジを行っています。また今後は、後継者の獲得、育成にも注力していきます。



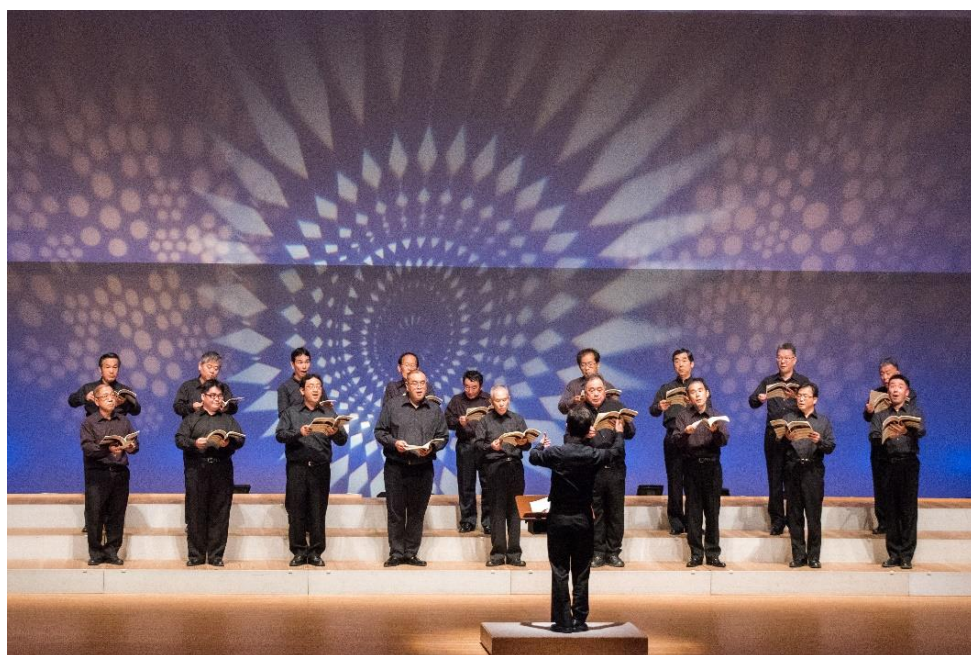
西条支店推薦	だんせいがつしょうだん が む 男声合唱団「我夢」	設 立	2000(H12).5
	きくはら あつし やました しょういち 団長 菊原 篤 氏 (出席: 団長代行 山下 昭一 氏)	会員数	19名

男声合唱団「我夢」様は、「我らの夢を形にしよう」をコンセプトに、歌好きな仲間が集まり結成されました。年齢や合唱経験に関係無く幅広くメンバーを募集し、様々な合唱曲に挑戦すると共に、男声合唱の魅力を広く発信しようと活動しています。

現在のメンバーは60代が中心で、月4回、西条市で練習に励んでいます。

毎年、愛媛県合唱祭やさいじょうコーラスフェスティバルに参加している他、数年ごとに定期演奏会を開催。また、さらなるレベルアップにつなげようと、昨年は全日本合唱コンクール愛媛県大会に初出場しました。

本年8月22日(土)、西条市総合文化会館にて創立25周年記念演奏会を開催します。「歌い継ぎたい日本の歌」等を披露する他、公募で他の合唱団員や中・高校生とも共演予定です。是非お越しください。



八幡浜支店推薦	かわなづかぐらほぞんかい 川名津神楽保存会	設 立	1994(H6).3
	会長 <small>やの たけし</small> 矢野 武 氏	会員数	163名

川名津神楽保存会様は、八幡浜市川上町に伝わる川名津神楽と柱松神事はしらまつしんじを保存伝承されています。江戸時代に度々大火に見舞われたため、火難除けとして始まったとされ、200年以上の歴史があり、2000年に県の無形民俗文化財にも指定されました。

毎年4月第3土曜日、川名津天満神社の宵宮祭で披露されますが、まず御神木と定めた木を山から切り出し、住民総出で神社境内に立て、「飛出舞とびでまい」「大蛇退治おろち」など24演目の神楽を奉納します。そして深夜0時、大魔だいまが2mの松明を背負って高さ12間の柱に登る勇壮な柱松登りが行われます。

会では2004年から地元の小学校で神楽を指導しており、近年、子ども神楽を経験した若者があらたに舞手に加わるという嬉しい出来事もありました。今後も地域一丸となって貴重な伝統文化の継承に努めていきます。



八幡浜支店推薦	やわはましだんかい 八幡浜史談会	設 立	1926(T15).9
	会 長 <small>こうの しげる</small> 河野 茂 氏	会 員 数	65 名

八幡浜史談会様は、大正 15 年、八幡浜と西宇和郡の郷土史研究家らにより「西宇和史談会」として設立された歴史ある史談会で、昭和 17 年に「八幡浜史談会」に改名し、現在に至っています。

現在の会員は、八幡浜市の歴史好きの方々が中心ですが、松山市等からも十数名参加しています。年 4 回、会合や外部講師を招いた講演会を開催すると共に、毎年、機関紙「八幡浜史談」を発行。長年にわたる本会の調査研究により、城下町ではない八幡浜において、国学者や歌人等の優れた人物が輩出されたり、外から学者や医師を招き人材養成を行ったり、「伊予の大阪」と呼ばれるほど貿易・経済が発展する等、進取の気性に富んだ地域であることを示す歴史の数々が判明しました。

2026 年度は創立 100 周年事業として、秋に記念講演会や記念誌発行を計画中です。



(1) 八 幡 浜 史 談 令和 7 年 3 月 吉 日



はじめに
令和 7 (2025) 年の N 日 K の 天河トッ
マは、「麗天を衝け」をやっていました。
主人公「浪沢栄一」は今度新しい一万円札
の顔となる(7/3から)人物で、明治時
代になって 50 以上多くの商社を造り上
げ、日本における近代資本主義の発端と定
着を図った偉大な経済人です。彼は日本の

浪沢栄一と南予との縁

清水 真 一

初期資本主義経済を新興して、今日の経済
大躍の基礎を作り、西万円の礼儀にもなり
ました。
彼は、武蔵国児玉郡本庄宿(現埼玉県本
庄市)の近、血洗島(現埼玉県深谷市)
という荒川の洪水によく現舞われる村落で
生まれた、桑や藍を生産し、絹糸や藍玉の
販売を行う農村で、代々地域で有力な百姓
一家でした。父市郎右衛門と母あいの長
男に生まれ栄一は草まられた地帯で育ち
れます。(17頁の系図参照)。
栄一の祖父
助宗には、3
人の男子と 2 人
の女子がいまし
た。長男宗助は 写真 1 浪沢栄一

目 次

○ 浪沢栄一と南予の縁	1
○ 打瀬船取騒動と新聞報道	17
○ 浪沢栄一と南予の縁	1
○ 防波堤資料	18
○ 南予で記録された安政大飢饉	22
○ 和泉孫一氏を偲ぶ	23
○ 八幡浜史談会令和 6 年度のお歩み	24
○ 史談(三号) 編集後記	24

「東家」を称し、
次男文平は「新
屋敷」を新し
て栄一の従兄
弟の成一郎の
父親となる。三
男市郎右衛門
は「中家」を称
しており、三軒
共に繁盛した。
市郎右衛門の妹やへは、尾高勝五郎に嫁
入りして千代と輝忠を産み、千代は後同栄
一の妻となる。この尾高家の子はテレビ
ドラマでも取り上げられて盛んに登場しま
した。ところがもう一人の女性で市郎右衛
門の姪女については、テレビドラマでは
全く触れられませんでした。彼女は近くの
本庄宿の商人、諸井泉衛と結婚する。諸井
家は本庄宿で業として栄えた三軒の諸井
家の一つで、この諸井家が今回の主人公の

写真 2 新 1 万円札(7 月 3 日発行)

一人となる諸井六郎の実家で、栄一の従弟
に当たる人物です。

1 穂積家について
(1) 穂積陳重と
浪沢栄一の長女はうた(または歌、う
た子)といいました。元和島博士の穂
積陳重(のぶし)(1888(安政 2) -
1978(昭和 53))
年 71 歳は、明
治 大正期に
日本の法学者
として活躍し
た人物。東京帝
大を卒業日本で初の法学博士号を取り
ます。
若い頃は宇和島藩第 8 代藩主宗城公の
家臣であり、明治維新後は新政府に仕え
て法律顧問で活躍し、晩年には樞密院議
長にも就任して、政界にも顔が広がった

長浜支店推薦	お お ず に ん ぎ ょ う げ き 大洲人形劇サークル「へそ太郎」 た ろ う	設 立	1977(S52).4
	代 表 <small>たまい よしゆき</small> 玉井 義幸 氏	会 員 数	8 名

大洲人形劇サークル「へそ太郎」様は、大洲市の青少年ボランティア活動から人形劇グループが独立して1977年に設立されました。

「子ども達に夢と希望と感動を！」をテーマに、人形劇を通じて、楽しく、時には悲しく、命や生きることの大切さを伝えています。

演目は寺谷純一郎原作の「ほっかむり兵六」、童話の「ジャックと豆の木」、オリジナル作品の「ぶす(トリカブトの毒のこと)」、宇和のお寺に伝わる話をアレンジした「うわばみ」等。

人形や道具はすべて手作りで、中には50年以上も使用している物もあります。

大洲市内を中心に、保育園や学校、児童クラブ、介護施設等で公演し、これまでの公演回数は750回を超えました。長年の活動が評価され、昨年、厚生労働大臣賞を受賞しました。

本年秋には、大洲市で50周年記念公演を計画中です。



三瓶支店	ほおのき 朴	こうしくみ 仔牛組	設 立	1916(T5)
	いのうえ 会長 井上	とくひさ 徳寿 氏	会員数	37名

朴 子牛組様は、三瓶町朝立^{あさだつ}地区の秋祭りに出場する牛鬼を保存伝承されています。

三瓶の牛鬼は「大牛」と「仔牛」の二体あり、仔牛は大牛を模して、明治 25 年頃から朴地区で始まりました。秋祭りでは牛鬼の他、相撲甚句、唐獅子、五つ鹿、四つ太鼓等が出場する盛大なお練りが行われ、牛鬼は露払いとして先導役を務めます。

このお練りは、安政 5 年(1858)に流行したコレラを鎮める祈願が由来とされ、西予市の無形民俗文化財にも指定されています。

祭りでは牛鬼を担ぎ揚げ、雄大さをアピールする見せ場があり、また、練りの後、各家庭や会社を回り、玄関先に頭を入れ無病息災を祈願します。

近年は人員確保に苦労していますが、今後は地区外にも広く参加を呼び掛けて、担ぎ手の確保に努めていきます。



卯之町支店推薦	おおかりはまい しかほぞんかい 大狩浜五つ鹿保存会	設 立	1974(S49).10
	大狩浜区長 <small>にしだ</small> 西田 <small>かずのり</small> 和徳 氏	会員数	14名

大狩浜五つ鹿保存会様は、西予市明浜町大狩浜に伝わる五つ鹿踊りを保存伝承されています。南予の鹿踊りは、慶長 20 年(1615)伊達政宗の長子 ひでむね 秀宗の宇和島入部により、仙台の鹿踊りが伝わったとされます。

本会の会員は 40 歳代から 60 歳代で、県外からの移住者も参加。毎年、春日大社の秋祭りに出場しますが、五つ鹿の周囲に結界をはる役目として、二対の獅子頭「ほと宝多」が立つのが特徴です。

宝多役は地元の中高生が務めており、若者に祭りで重要な役割を担ってもらうことで、地域への愛着を育んでいます。

鹿の面と宝多の一对は江戸時代中期に作られた貴重なもので、市の文化財であり、普段は明浜歴史民俗資料館に展示されていますが、祭りの際には現役で使用されており、これからも地域をあげて伝統行事の継承に努めていきます。



近永支店推薦	せいずい しかおど ほぞんかい 清水五ツ鹿踊り保存会
	会長 たにぐち ひさお 氏 谷口 久雄 氏

設立	1965(S40).4
会員数	50名

清水五ツ鹿踊り保存会様は、鬼北町清水地区に伝わる五ツ鹿踊りを保存伝承されています。

五ツ鹿踊りは、面の台座の銘から嘉永^{かえい}6年(1853)には定着していたとみられ、また、音階や歌詞など音楽的にも江戸時代の原型を留める貴重なものと評価され、1965年に県の無形民俗文化財に指定されました。

人口減少等により2017年に中断しますが、愛治小学校の「総合的な学習の時間」に取り入れられたことを機に再興の気運が高まり、役場の若手職員等が舞手となって、2023年に復活を果たしました。復活に際しては、将来の後継者不足を見越して2004年に踊りを全て録画していたことが功を奏したとのことです。

現在は天満神社の秋祭りや地域イベントで披露されている他、小学生にも踊り体験させるなど、鹿踊りの経験者を増やす取り組みを行っています。

